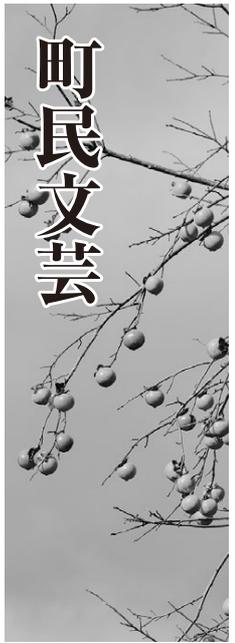


町民文芸



只見短歌会

十月詠草

大塚栄一

指導

今年また頂きし新米こめのありがたく封切ればほのか糠ぬかの匂ひす

馬場 八智

裏庭に真赤に咲きし曼殊沙華死人花とも捨てんと迷ふ

渡部ゆき子

旅先に孫の反応浮かべつつみやげ選ぶは至福の時ぞ

目黒 富子

十九号台風ニュース悲惨なる状況映像わが胸うたる

関谷登美子

刈り取りの終はりし稲田に近づけば散らばる藁から雀飛び交ふ

渡部ヨリ子

月末の支払ひ多く通帳の残高見ては溜息をつく

新国由紀子

声に出し唄へぬわれは懐かしき昭和演歌の歌詞めぐりみつ

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

十一月定例会

目黒十一

指導

小春日やそろりそろりと猫が行く
山並みを薄化粧して初冠雪

信

晚菊の一つ一つに頭べ垂れ
母遺品針箱見つめ秋深し

都

実南天菰着せられてしばられて
自然暑のかたちも笑い並べ干す

弘子

冬麗や古寺落慶の鐘の音
転読の声かさなりて冴ゆるかな

恒夫

しばらくの発車待つ間や紅葉山
稽田や濁りの残る信濃川

礼

見舞いればぶどう三粒漸くに
軒下にスタンバイして除雪車よ

一穂

身重なる娘如何にや栗拾う
鈴の音や熊の残せし栗拾い

修一

十二月八日迫撃砲手二等兵
梵鐘の余韻嬾々雪の葬

吉見

下刈りに逃れし野菊夕間暮れ
桜落葉球巻き上げてグラウンドゴルフ

幸生